

菊池川流域の古代区画割

菊池川周辺の米作りは、2,000 年以上前に広大な平野に点在する小さな水田で始まった。この分散型農業は、8 世紀に中央政権が新しい土地区画割を導入するまで続けられた。新しい制度では、農地を一定のマス目に分割することで、農民への配分、使用权の管理、土地税の徴収を容易にした。また、均等な区画は、秩序ある灌漑による生産性の向上も目的としていた。畝や溝を利用して、田畑を一辺 109 メートルの「町」と呼ばれる約 1 ヘクタールの区画に分割した。

菊池川流域には、8 世紀の官僚たちが作った地割がそのまま残っている場所もあり、上空から見るとはっきりと区別できる。飛行機の窓から、あるいは鞠智城跡の展望台から見ると、碁盤の目のように整然とした農地が広がっているのがわかる。